The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 305.　　FEBRUARY 20TH.　　1892.

EDITORIAL :—The Reason Why a Teacher Dismissed at the Kumamoto Ei-gakko.

LEADING ARTICLES :—Poets and Pessimists. No II ; So-called Reformers of Japan.

LITERALY :— Words-worth and Kamo-no-Chōmei

BIOGRAPHY :—Milton's Wives.

MISCELLANIES :—A Tragical Poem (concluded), (Unpōshi) ; Napoleon and His Friend ; Will made by William Penn's Father to His Son.

QUESTION AND ANSWER :—Why do I feel lonely.

TOPICS OF THE DAY.

NEWS OF THE WEEK.

REPORT from America by Miss Yamawaki Hana.

第三百五號目次

●社說　熊本英學校事件

●論說　厭世詩家と女性(二)(透谷隱士)○日本改革家の爲に泣く(川合信水)

●史傳　ミルトンの夫人(島の春)

●雜錄　アルハマ落城、悲曲一日(雲峯子)○

●文學　鴨長明とヲイヅヲルス

●問答　ある乙女、さみしき心の問に答ふ(山下石翁)

●時事

●米國通信

●女報

皇后陛下
明宮殿下
御覽濟の書

若松賤子譯

小公子

一冊三十八錢也

近日
再版
出來上可申候

郵稅一冊八錢也

鈴木弘恭大人講述

第四版

百人一首講義

附錄小倉てびき

新年に至り注文いよ〳〵多く第三版品切に成りたれば茲に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〴〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すとを得る至極重寶の案内書なり。

下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百五號
明治二十五年二月二十日發兌

社説

熊本英學校事件

近日の事、痛憤に堪へざる者甚だ多し。白晝拔刀するもの横行し、刄を民黨候補者の首に擬するを見て、巡査之を制せず、警部、民黨撰擧人の家宅に屯ろし、反つて其投票に關渉したるが如き事例は、世上新聞紙の公けに報道する所ろにして、未だ其の正誤せられたるを聞かず。

若し夫れ此度の總撰擧中に行はれたる政治をもて、明治立憲世代の本色と爲さば、吾等人民が所有する、言論の自由、生命の保安、投票の權利なんどは、抑も幾千程の區域に存するや。誰か、憲法の力を偉大なりと云ふ、誰か、日本を立憲國なりと云ふ。斷じて然りと揚言するものは、今や痛憤慟哭せざるを得ず。

吾人は、現内閣、現民黨の何れにも恩怨なし、吾人が眼中には、彼等ともに日本國裏の同胞なり、何故なれば、彼等は斯く互ひに仲の惡ろきやと奇しみ、又、何故なれば、互ひに斯く敵對せらるゝにやと疑がひ、寧しろ忙然として其解に苦しみ、超然、其傍に中立するものなり。然れども、確かに其一方の不正不當なることを認知するに於ては、鼓を打つて之を責めざる可らず。之が爲に必らずしも他方に味方するにはあらざる也。但だ夫れ、民黨諸氏が行爲は多く一箇人の事に屬す、吏黨の處置に至つては、地方長官、郡吏、警察署員等に關係すと見ゆるもの尠なからず。果して若し然りとせば、之れ油々しき大事なり、國家の行政の爲に、及び純平たる民權の爲に、決して棄置く可らざることなり。

然りと雖ども、既に、吏、民、黨を分つて、互ひに自家の仲間を出さんとす、一種の戰を挑むにあたりては、人情双方に激する所ろあるは止むことを得ず、之が爲に平時決して在るまじきほどの處置を爲すに至るとも、亦幾分の容恕を與ふべきものなりとす。可成くは傷を東海に洗つて、春天、恨意を富岳の雪もろ共に消さんことを可とす。

たゞ、其影響、撰擧事件と共に絶せず、非常の關係を後に遺して、十年育英の道に至大の防害を與へんとするの處置に至

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ては、敢て毫末も假借すべからず。勝敗三日の爭ひは、暫らく默認するとを得、邦家十年の大計に至ては、決して恕す可らざる也。熊本英學校近時の出來事の如き即はち是也。是も亦た撰擧競爭上の一策として迸ばしりたるものなるべし、當路の人、今に於て豈に慚愧の情なしとせんや。然れども、其關係する所ろ極めて大、其影響する所ろ至つて遠きが故に、必らずや、之を一般撰擧事件と共に埋沒す可らざる也。

女學雜誌の讀者は、前二號に連載したる、「警告」、及び「開書」の報ずる所によりて、此事件の大躰を承知せられたるなるべし。

一月十一日新校長藏原惟郭氏の就任式ありける時、敎員惣代奥村禎次郎氏が演説中、「本校敎育の方針は、日本主義に非ず、亞細亞主義に非ず、歐米主義にも非ず、乃はち世界の人物を作る博愛世界主義なり、故に我々の眼中には、國家なく、外人なし、況んや校長をや、今日の來賓をや」と云へる一段ありしよしにて（當時の言語果して斯の如くなりしやを保證せず、但だ國權黨の機關九州日々新聞が斯く記すにより、最上過激の言語に聞傚すとも即はち此類の辭ばにてありしとを證せんと欲す）九州日々新聞は、此國家なしと云へる一句を捉らへ來り、此は國家を蔑如したるものなり、勅語に背戻したるものなり、大不敬亂臣賊子なりと曲辭煽揺したり。然るに、此演説ありし頃ひは、縣官も早や退出したる後なりしに、知事は、何の據所に據てか、一應の取調べもなく、平然右奥村禎次郎を解雇すべしと命令したり。

熊本英學校は、九州日々新聞の記事に對して、告訴したる程なれば、知事が右の命令を奇怪なる事とし、直ちに、伺書を出し、何故に解雇を命ぜらるゝや、並に何の法令に遵據して之を命ぜらるゝやと問へるに、職權によりて命ずるなり、敎師として不適當なるが故に解雇せしむるなりとは答へ、而して其不適當と認むる所以に至ては、答辨の限に非ずと指令せられたるよし也。

此れ實に常ならぬ處置と云ふべし、地方長官は、其地方の學事を監督するの職權を有す、而して之を有するは當然の事なり、此の當然の職權によりて當然の監督を施こすは當に然る可となりと雖ども、政府の金を以て校舍を維持するにもあらず、政府の命を以て敎師を黜陟するにもあらざる私立學校に

對するの監督も、尙ほ亦當に斯の如くなるべき乎。前年、第一高等中學校に當時不敬事件と持囃されたる出來事あり。內村鑑三氏之が爲に罷られ、木村駿吉氏之が爲に非職となりぬ。當時、第一高等中學校長の答辨する所ろを聞くに、木村駿吉氏が非職となるは、勅諭の精神に背くヿを知る、然れども、勅諭を重んずるには、先づ其形外より入らんとするを以て、暫らく勅諭の精神に背くヿを安んずと。如此き主旨をもて當時非職の事行はれたり。木村氏は、此由を書して文部次官に伺ひたるに、答辨の限にあらずと指令せられたる由にきく。夫れ、長官は、其下に使ふ役人どもに對し、隨意の任免を爲すヿを得るなり、所云る奏任と云ふとも、何事を奏するヿなるか、殆んど吾人が瞭解するヿ能はざる所ろ也。左れど、官員社會に於ては、此邊の出來事は珍らしきヿにあらず、地頭は泣く子と均しく、議論にては勝たれぬものにして勘辨するの外ある可らずと雖ども、一錢の保護を官より受けず、一枚の辭令書を役人より頂戴せず、校舍小さしとも子弟同もに自由に膝を伸すヿを得、獨立支持して敢て政府の厄介とならざる私立學校に至ては、斷じて〳〵右樣の筆法をもて一揮せらるべきものにあらず。下男下女を出すにも相當の言聞かせを要す、車夫に暇を遣はすにも、多少の講釋なかる可らず、但夫れ、今の官海の免罷非職に其理由を言はざるの習慣ありと云へども、之によりて直ちに私立學校に同格の役所風を執行す可きに非ず。

政府は私立學校を撲滅せんとすと云ふものありき。吾人は其風說を一笑に附したり。左れど、かゝる誤評を傳へしむるだに、政府の益にあらず。何んとなれば、時事翁が屢ば怨ぜし如く、政府は學問の權を一手に握らんとして多年民間人の感情を大ひに害ねたり、而して尙ほ斯る評判あるに及べば、民派の感情いよ〳〵激し、遂に大學全廢の說に氣焰を加ふるに至るが故なり。吾人は、慧利なる明治政府が戰々兢々としてよく此邊に注意せらるゝヿを信ぜんと欲す。

然るに、知事、長官は、理由を告げず、卒然命を發し、私立學校の敎員を勝手に解雇せしむるの權ありとし、現に其實例を熊本に示し、中央政府毫も之を奇しまずとせば、全國幾百千の大小私立學校たるものは、非常の危地に立つものなり、無言の巨石何時落下し來るやを知るヿ能はず、夕やけの翌る

日は霽るゝことを知り、雲多き朝たは、雨ふることを察す、然れども、私立學校に對する雲上漠々の空景色は、雨落ち、電閃めくの后にあらざれば知ること能はず。

或人解して云く、熊本縣知事の處置は、博愛主義の教育を不可とする也と。これ至愚の解釋なり。博愛主義の教育は何故に不可なるか。韓愈は孟子を敬す。孟子は孔子を宗とす。韓愈云く、博愛之を仁と云ふと。然らば、博愛は即はち孔子の教にあらずや、たとひ、保守の見を懷き、論語孔子に心醉すと云ふと雖ども、之が爲めに博愛を不可とすと云ふものあらば、是れ論語を讀みて論語を知らざるの徒なり。或は云はん、博愛は　勅諭に反くと、是れいよ／＼愚なり。　勅諭の大意に云く、天地の公道に則とるべし、博く民衆を愛すべし。博愛は即はち、勅諭の精神なり。或人辨じて云く、熊本縣知事松平正直氏は、博愛の道を不可とするにあらず、たゞ國家的の觀念を養なふに於て適せざることを憂ふるなり、故に、奧村氏を教員たるに不適當と認定したりと。吾人はいよ／＼笑はざるを得ず。松平正直氏は如此き愚人にあらず。氏が大知己、伊藤博文氏は、ビスマーク翁に基督教の説法を聞き、立憲政國には必らず確乎たる一宗教なかる可らず、宗教なき立憲國は、則はち亂離我儘の國となるの理を悟了せられたり、而して、かかる有力の宗教は、基督教を措て他に存せざることを認ため、基督教は即はち立憲國民の國家思想を堅確にするものたることを信ぜられたり。博文氏の知己たる松平正直氏にして、何んぞ此の明理に惑へることかあらん。吾人は、松平正直氏の賢なることを信ぜんとす。

吾人は万疑を排し、止むことを得ず信ぜんとす。熊本縣知事は、熊本英學校教師奧村禎次郎氏が、教育に博愛主義を懷抱するを不可とし、之が爲めに教員たるに不適當と認定したりと。此に於てか吾人はいよ／＼惑ふ。熊本縣知事の解釋果して如此くば、知事は何故に熊本英學校全躰を解散せしめざりしか。奧村氏は、教員惣代として演説し、「熊本英學校の教育方針は」の破頭を以て口を開けり。もし此時の演説の主旨を以て、教育に不適當ありとせば、熊本英學校の教育方針惣べて不適當たる也。知事は、何故に此全躰を放任して、その一箇人をのみ取締らんとする乎。

故に、吾人は熊本縣知事の處置の理由を悟ること能はず、たゞ

答辨の限に非ざるの理由なりと信ず。即はち悟ると能はず、答へらるゝとなきの理由によりて、卒然、私立學校の上に、落石平たる監督を施こさるゝとを頗ぶる奇怪とす。吾人は此奇怪の事を奇怪とし、奇怪のまゝに執行せらるゝを不當とし、不當の處置を默々に附す可らざるとを確信し、天下の志士と共に、倶に之を公問、公詰せんとするもの也。

熊本英學校は、知事の命令及答辨を得たる后ち、何如にせし乎。彼は、泣々、其命令を奉じ、奥村氏を解雇したり。而して、之が爲め、全校の意見二つに分れ、其一部分は、怨を呑んで、校と關係を絶ちたり。

熊本英學校は、「命令を奉ずるの理由」一篇を、二月十四日の熊本新聞に投じて云く、

然るに吾人と意見を異にするの諸氏は曰く知事にして假令之れを命令するの職權ありとするも其の命令にして不正其の理由にして不明ならんには正を蹈んで懼るゝなく宜しく是れを拒絶すべしと是れ其の意見の別るゝ要點にして到底相一致する能はざる所以なり吾人惟へらく法律は政府の施行する所知事は　天皇陛下の信任し玉ふ所故に日本臣民としては一毫も國家の法律を破らず其職權を重んじ命令を奉ぜざるべからず然ども皇天の健兒眞理の義兵としては堅然確然其理由を質し其當否を問ざるべからず故に其の命令を奉じ而して後正々堂々是れを新聞雜誌上に論し是れを輿論に訴へ以て公平なる天下の判决を仰ぐも未だ以て遲しとせず否な寧ろ正當なる順序なるなり之れ吾人が國法に對しては其の命令を奉じ眞理に由ては我が主義を貫徹せんとする所以なり吾人の信ずる處既に斯の如く吾人の精神既に斯の如し豈に區々の私情に齷齪として斷乎たる處置に出でざるを得んや是れ吾人が國民たるの義務を守りて斷然此に知事の命令を奉ずるの理由なり。

一部の人、田中賢道、柏木義圓、外十氏は、「吾人の心事を明にす」と題する一篇を、二月十二日の同新聞に寄て云く、

然るに英學校々長社員教師の一部及び生徒諸氏の多數は曰く命令を發したる理由の當否は暫措き知事の職權を以て發したる命令は命令として重んぜずる可らず是れ國民として受へき當然の義務なるなり宜しく先つ此命令を奉し而後其の理由を求め不當と信する所は飽まで其不當を鳴すへし我輩は先つ此の命令を受け然る後正々堂々大に其是非曲直を明にせんことを欲するなりと吾人は諸氏を信ず吾人は諸氏の其の信ずる所を守るを重んず然れとも吾人の見る所は正確にして俯仰天地に耻ぢずと信ずる者なり吾人は此事は主義ある男子の爲さゞる可らざる責任なりと信ずるなり吾人は此精神元氣を日本に發揮せんことを欲する者なり於是乎兩者到底相容れざるなり吾人は斷して命令に服する能はざるなり雖然主義に由て分合するは男子の本色諸氏は諸氏の意見に由りて學校の方面に立ち吾人は吾人の主義に由て快然袂を振て去る此際一片感情相傷むるなく互に心事公明磊落なり吾人は今や不幸にして主義を異にして相別るゝも平素相信ずるの精神は一なり尙ほ將來天下の爲に正義の氣焰を吐き寃軍を拂ふに於て必ず相合する所ある可きを信ずるなり。

吾人は渾然一和せる同校の同志者が、此に至て兩分せるとを悲しむ。而して、其執る所の方法何れか可なるやに至ては、吾人亦説あり。然れども、兩者ただ路を異にするのみ、其前途は則はち一、熊本知事の處置を不可とし、之を天下に訴へんとするの希望に至つては共に同じ。故に、吾人は、其從來の徑路の岐れたるを可否せず、之より以后前途の進行に於て、兩派の諸君と合同提携せんとす。あゝ是れ小事にあらず、邦家育英の大問題にあらずや。

五

論説

厭世詩家と女性（下）

透谷隱士

男女既に合して一となりたる曉には空行く雲にも顏あるが如く森に鳴く鳥の聲にも悉く調子あるが如く、昨日といふ過去は幾十年を經たる昔日の如く今日といふ現在は幾代にも亘る可實存の如くに感じ、今迄は縁遠かりし社界は急に間近に迫り來り、今迄は深く念頭に掛けざりし儀式も義務も急速に推しかけ來り、俄然其境界を代へしめて無形より有形に入らしめ、無頓着より細心に移らしめ、社界組織の網繩に繋がれて不規則規則にはまり、換言すれば想世界より實世界の擒となり、想世界の不羈を失ふて實世界の束縛となる、風流家の語を以て之を一言すれば婚姻は人を俗化し了する者なり。然れども俗化するは人をして正當の地位に立たしむる所以にして上帝に對する義務も人間に對する義務も、古へ人が爛熳たる花に譬へたる德義も人の正當なる地位に立つよりして始めて生ずる者なる可けれ、故に婚姻の人を俗化するは人を眞面目ならしむる所以にして妄想滅じ實想殖ゆるは人生の正午期に入るの用意を怠らしめざる基ひある可けむ。

厭世家が戀愛に對すること常人よりも激切なるの理由前に既に述べたり。怪しきかな戀愛の厭世家を眩せしむるの容易なるが如くに婚姻は厭世家を失望せしむる事甚だ容易なり。そも〳〵厭世家なるものは社界の規律に遵ふこと能はざる者なり、社界を以て家となさゞる者なり「世に愛せられず世をも愛せざる者なり」(I love not the world, nor the world me) 繩墨の規矩に掣肘せらるゝこと能はさる者なり、普通の快樂は以て快樂と認められざる者なり (My Pleasure is not that of the world etc. 一言すれば彼等が穢土と罵るこの娑婆に於て社界といふ組織を爲す可き資格を缺ける者なり。故に多くの希望を以て多くの想像を以て入りたる婚姻の結合は彼等をして敵地に陷入らしめたるが如きのみ。彼等が明鏡の裡に我が眞影の寫るを見て益厭世の度を高ふすべきも婚姻の歡樂は彼等を誠信と樂天に導くには力足らぬなり。

彼等は人世を厭離するの思想こそあれ人世に羈束せられんことは思ひも寄らぬところなり。婚姻が彼等をして一層社界を嫌厭せしめ、一層義務に背かしめ、一層不滿を多からしむ

る者是を以てなり。かるが故に始に過重なる希望を以て入りたる婚姻は後に比較的の失望を招かしめ、慘として夫婦相對するが如き事起るなり。

女性は感情の動物なれば愛するよりも愛せらるゝが故に愛することを多きなり。愛を仕向けるよりも愛に酬ゆるこそ其の正當の地位なれ。葛羅となりて幹に纏ひ繞はるが如く男性に倚るものなり、男性の一擧一動を以て喜憂となす者なり、男性の愛情の爲に左右せらるゝ者なり。然るに不幸にして男性の素振に己れを嫌忌するの狀あるを見ば嫉妬も萌すなり、廻り氣も起るなり、恨み苦みも生ずるなり、男性の自ら繰戻すにあらざれば眞誠の愛情或は外れて意外の事あるに至る可し。而して既に社界を厭へるもの、破壞的思想に充ちたるもの、世俗の義務及び德義に重きを置かざるもの即ち彼の厭世詩家に至りては果して能く女性に對する調和を全ふし得可きや。

夫れ詩人は頑物なり、世路を濶歩することを好まずして我が自ら造れる天地の中に逍遙する者なり。厭世主義を奉ずる者に至りては、其造れる天地の實世界と懸絶すること甚だ遠しと云ふ可く、婚姻によりて實世界に擒せられたるが爲にわが理想の小天地は益狹窄なるが如きを覺へて、最初には理想の牙城として戀愛したる者が後には忌はしき愛縛となりて我身を制抑するが如く感ずるなり。此に至つて釋氏をして惑哉肉眼吾今觀之從頭至足無一好也と罵り又た其内甚臭穢外爲嚴飾容加叉含毒螫劇如蛇與龍と叫び更に又た婦人非常友如燈焰不停彼則是常怨猶如畵石文云々等の語を發せしめ東洋の厭世教をして長く女性を冷遇するの積弊を起さしめたり。

七

婚姻と死とは僅に邦語を談ずるを得るの稚兒より墳墓に近づく迄人間の常に口にする所なりとはエマルソンの至言なり。讀本を懷にして校堂に上るの小兒が他の少女に對して互に面を赧ふすることも、假名を便りに草紙讀む幼な心に既に戀愛の何物なるかを想像することも。皆な是人生の順序にして正當に戀愛するは正當に世を辭し去ると同一の大法なる可けれ。戀愛によりて人は理想の聚合を得婚姻によりて想界より實界に擒せられ、死によりて實界と物質界とを脫離す。抑も戀愛の始めは自らの意匠を愛する者にして對手なる女性は假物なれば好しや其愛情益發達するとも遂には狂愛より靜愛に移るの時期ある可し、此靜愛なる者は厭世詩家に取りて一

の重荷なるが如くにありて合歡の情或は中折するに至は豈惜む可きあまりあらずや。バイロンが英國を去る時の咏歌の中に「誰れが情婦又は正妻のかこちごとや空涙を眞事とし受くる愚を學ばむ」と言出けむも實に厭世家の心事を暴露せるものなる可し。同作家の「婦人に寄語す」と題する一篇を讀まば英國の如き兩性の間柄嚴格なる國に於てすら斯の如き放言を吐きし詩家の胸奥を覗ふに足る可けむ。

嗚呼不幸なるは女性かな、厭世詩家の前に優美高妙を代表すると同時に醜穢なる俗界の通辨となりて其嘲罵する所となり其冷遇する所となり終生涙を飲んで寢ねての夢覺めての夢に郎を思ひ郎を恨んで遂に其愁殺するところとなるぞうたてけれうたてけれ。(戀人の破綻して相別れたるは雙方に永久の冬夜を賦與したるが如し)とバイロンは自白せり。

日本改革家の爲めに泣く

川合信水

『義人なし一人もあるなし』汚世混々として濁波高く揚る、政治、商業、文學、風俗、習慣、流行、一として吾人の胸を撲たざるはなし『あゝ禍なる哉コランヂよ噫禍なる哉ベッサイダよ……』と曰ひ給ひし基督の心、如何に切に同情を表せらるゝ哉、慨然として目を放つ、改革家何處に在る、

看得たり慷慨自任の士、其文を讀めば則ち曰く、犧牲獻身以て國家の爲めに盡さんとすと、其言を聞けば則ち曰く、死を決して日本を改革せんとすと、其行を觀れば則ち僅の働をなして揚々得々たり、傲然として同胞を睥睨し、以て義者勇者なりと自任す、嗚呼現今の所謂氣慨ある基督教徒、望ある改革家の眞狀、果して斯の如きか、非か、何ぞ其言行、事業の吹聽的なるや、彼等の演說を聽く、たゞ口先の辨、胸以上の語のみ、散漫、輕浮、其軆も亦浮ばんとす、彼等の擧動を見る、輕く、小さく、淺し、所謂其勇進は、蝗の飛ぶが如く、蛙の跳るが如し、未だ雄大深剛の精神あらず、未だ大憤深慨あらず、音吐深く腹の底より出でず、行ひ至誠の止むを得ざるより發せず、其能く義人を起たしむるの力無き、亦宜ならずや、

吾人は基督の言を引きて、鉦を吹くの自稱改革家に警告す、『なんぢ施濟をするとき右の手の爲ことを左の手に知らする勿れ』顧みて爾の一身を改革せよ、爾の揚々得々を去て深く自

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

らを責めよ『なんぢら苦め哀め哭なんぢらの笑を哀哭に易よ爾曹の歡樂を憂に易よ自己を主の前に卑せよさらば主なんぢらを高せん』試問す、爾今幾何か高き、日本の人民をして、爾の願の如く、爾の地位に至らしむるも、將た何程のことかあらん、爾の如く低く小くして、

吾人は淺く感じて輕く言ひ淡く行ふの徒を以て、小川の流れに譬ふ、誠に愛らしと雖も、之に感動心醉する者は、小人國の小人のみ、現今の日本人士が、少しの働をなし僅かの功を立て、直に得々とし、而して見る者、聞く者、直に感心し、直に賞嘆讃美するが如きは、豈其量の豆よりも小なるを顯すものにあらずや、輕賞輕讃、得々たる者をして更に得々たらしむ、嗚呼日本國民の賞讃は誠に罪なる哉、日本社會の名譽は誠に禍なる哉、前途進むべきの人物を無慘に殺了す、嗚呼義者と呼ばれて揚々たる者、眞の義者にあらず、善者と稱せられて得々たる者、眞の善者にあらず、社會の表面を擧げて、殆んど見識の如くならしめんとす、是れ豈深く慨すべきの時にあらずや、

嗚呼世の爲めに深く慨し、而して自己の位置如何を思ひ、同志者の有樣如何を考ふ、即ち自己をして高からしめ、同志者をして高からしめんとす、是に於て乎他愛と同時に自愛、國を慨すると共に、自らを慨し同志者を慨す、誠祈熱禱、一身を擧げて基督に献げ、我れ自ら生くるに非ず、基督我に在りて生き、我れ自ら働くに非ず、基督我に在りて働くに至らんことを望む、此偉大、弘遠、深剛の志、ワシントンが粛然として立つが如く、クロムウエルの毅然として起るが如く、迫らず、亂れず、堂々凛々として進む、さては味方を思ひし者の中、軟骨なる者、輕佻なる輩は、離れて逃れ去り、敵と思ひし者の中、正しき人、剛の者は、よき友を得たりと、來り集るもものやあらん、櫛風沐雨、奮て千艱萬難と戰ふ、言はんと欲して言ふこと能はず、行はんと欲して行ふこと能はず、進まんと欲して進むこと能はざるの苦境に陷ること、屢々之れ有らん、幾多の苦痛、困難、悲哀、吾等を鍛錬し、吾等を修養し、吾等が赤誠熱心をして、更に鬱勃止む能はざらしむ、當に洪水の積り／＼て堤を決するの慨あるべし、嗚呼此力、以て人を動かし、世を動かす、改革家の苦心、豈淺少ならんや、

現今改革を以て自任する人、誰れか日本の爲めに、同志者の

爲めに、徹夜涙を揮て上帝に祈る者あるか、誰か自らの爲めに深く智德の足らざるを哀み、號泣して求むる者あるか、『我心いたく憂て死ぬるばかりなり』と、ゲッセマネの園に、血の滴りの如き汗を流して祈り給ひし基督の苦痛、誰か之を知り得る者ぞ、若し此苦痛を心に味ふとなくば、未だ以て愛國、愛民、愛家、愛友を語るべからざる也。

史傳

詩人ミルトンの妻

島の春

「ライダル」の隱者が呼びて神來叟といひしジョン、ミルトンは英國に絶代の風雅を殘したる詩人なり稟賦學識ともに世に勝れその唫哦せしところ樂園の名殘をとゞめて永く後の世の人を驚かす。さはあれど身を終るまで室家の和樂に居りしこと少なく涙々として惆悵のおもひのみ多かりし。この人にしてこの事あるはいかにぞや。

詩人ミルトン三度娶りぬそのはじめなるをマリー、パエル女といふ。千六百四十三年初夏の頃渠は都を去て奈邊へか旅立しけむと人の思ひしに頓て一月を經て歸り來り是時よりして倫敦「アルダゲート」なる渠の家には新婦マリーと其親戚の聲を聽けり。これはミルトンが三十五歳の時にてありし。もとこのマリー女といふは「ホレスト、ヒル」の良家の女にて父の名をリチヤード、パエルといふ。パエルとミルトンとの二家はもと親しき間柄なりしを其後久しく打絶へて音信もせざりしがジョン「ホレスト、ヒル」に趣きて更に舊交を新にし其長女を娶るに至れり。ミルトンがマリーと伉儷の縁を結びしは和樂のはじめといふべきか和樂のおはりといふべきか。是時よりして渠の影には常に「ミゼリー」(憂恨の魔)の附添ふを見たりといへり、

ミルトンが悲哀はこの伉儷にはじまれり固よりミルトンと雖もその伉儷の悲しかるべきを思ひてマリーを娶りしにはあらず況んや憐むべき少婦に於てをや二人の契老はもとより天運ありその契老の悲慘に伴ひしはこれ亦天運といふの外なかるべし。其頃の人の書殘したるものによりても又は今に殘りたる面影によりても渠はあまり丈高き方にあらず筋骨よくとゝのひて昂然たるところ男らし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

く髪の毛は茶の色をふくみ容貌正粛にして犯し難き趣ありしがごとし其性たのしくして温和に人と交り常に管絃を好みてみづからも之を弾ずるに拙からざりしといふ且は酷しき上戸の友にあらずといへばこの人にして一家の夫にふさはしからぬところあるなし。然れどもミルトンは人間の蠹魚なりトーランドの言葉によれば渠が情のうち讀書の愛にこえたるはなく夏は四時に起き冬は五時に起きぬとあり。斯て一日の間讀書に耽り身を擧げて風雅の友となすこと女子の貪欲に適せざるや顯著なり。文學者哲學者詩人のごときは凡常の人に比べて伉儷の縁に不幸なるもの多きにジョージ、エリオットは「ミッドルマーチ」といふ小説を作りて年配の不相應あるがうへ妻を愛せむよりは寧ろ書籍を愛せむといふ夫を持ちし少女の不幸なる様を寫せり。夫ミルトンと其少婦とは「ミッドルマーチ」に見えたるカゾーボンとケンドリンとの情縁に似たるものか。もとよりミルトンは「ピューリタン」清敎徒の確信を抱き高遠なる理想に歩むの士ありき是故に十七歳なる少女を娶りて其無識なる唇頭より渠が想に同情をあらはすべき言葉を聽かむとは思はざりしなるべし。然ども「ピューリタン」の常として女子は男子に屈從すべきものと思ひしかばおのれが思ふ儘に少女を鑄むこと容易なる業なりと思ひしならむ。傳ふるところによるに、マリー、パエルは人に勝れたる容貌を持たざれど年若くして清楚なりしといへり。殊に沈み勝なる氣性にして人と多く語るを好まず、心を許したる親しきものにてもあらざれば容易に口を開かざりしといへり。況や諸人の出入多き大家にうまれておのれが性の沈めるにひきかへにぎやかなる家の風に慣れたれば、詩人の妻となりて哲學的の隱栖に堪えざるのみか、全くミルトンの人となりに滿足せず且は勤王黨の父を持ちて敵派といふべき夫の間に立たむとの心苦きによれるものか。ミルトンと共に偕老を樂まむとせしさまも見えざりきといふ。

マリー、パエルはミルトンに嫁ぎて倫敦にありしこと纔に一ケ月の間のみ。其程を經て直に「ミカエルマス」なる父の家に歸りぬ。頓てたちもどるべき日數も來りしかばミルトンは屢々消息を通ぜしにマリーは歸るとを好まずとて其使を嘲り返

してけり。マリーのミルトンに嫁ぎしは其父を慰めむが爲にして今渠と別れたるも亦同じくこの爲なれば、マリーの父は人に向ひて共和黨の暴漢に女を與へむことの心苦しさよといひしとぞ。ミルトンが有名なる離婚論を作しは蓋しこの時なり。左れど幾程もなくマリーは再びミルトンの家に歸りけり。

不思儀なるはミルトンとマリーとの離婚なり。されどマリー再び新家に歸りしと云は更に一層の疑念を加しむ。マリーがまへなる離縁をもて母の勸誘によるものとなせしはまことなる理と云べきか。淺間敷は人の情なるに、まして吾娘の爲とあらば前後の思慮なきこと世の母の慾目なり。マリーより其母の許へミルトンの家の模樣などこまぐゝと記し贈らば、隱者の妻にせまじとて誰かマリーを娶せしやと、其母の心を痛めしと、今におりくと見ゆるごとし。マリーがミルトンの家を去て幾干もなく、ミルトンの組したる獨立派は席の如くに英國の天地を卷きミルトンはこゝに旭日の勢を示して、いたくパエル家の零落にうつろひぬ。是を見てマリーの母はミルトンが蠹魚なりし日こそ我可愛の娘を與るの氣はなけれ、今は一個の男子となり榮譽の希望凡人の眼にも見えしより、反てマリーの方を責罵り、再びミルトンの家に歸れといひにき。是時に當ては如何なる夫と雖も最早マリーを吾家に伴ふの心地あしきを思べし。左れどミルトン或る人の宴席に招かれて不圖先妻の我が眼前に泣き謝ぶるを見、いたくあはれにぞ思ひけむ、再び家に伴ひ歸り過にしことを問はざりしといへり。「ピユーリタン」の胸中洒々落々として古今に恥るところあかりしや、これをもて見べし。況んやパエル家は零落のさかひに沈み、マリーの父は蠹魚なる人の家に於て其餘生を送りしといふをや。

憐む可き少婦マリー、パエルは、再びミルトンの許に嫁ぎて是より偕老のちぎり淺からざりしに、千六百四十九年に至り遂に良人のみを殘しをきて、身は亡き人の數に入りぬ。これより四年の程を經て、ミルトンは第二の妻を娶りしが、是はキヤプテン、ウツドコツクといふもの〻女にして、其名をカセラインと呼ぶ。ミルトンが「與妻辭」に、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

"Methought I saw my late espouséd saint
Brought to me like Alcestis, from the grave,
Whom Jove's great son to her glad husband gave,
Rescued from death by force, though pale and faint;
Mine, as whom washed from spot childbed taint,
Purification in the old law did save,
And such, as yet once more I trust to have
Full sight of her in heaven without restraint,
Came vested all in white, pure as her mind!
Her face was veiled; yet to my fancied sight,
Love, sweetness, goodness, in her person shined
So clear, as in no face with more delight.
But oh! as to embrace me she inclined,
I waked; she fled; and day brought back my night."

とあるはこの優婉靜淑なる良婦に贈るの辭なりけり。悲ひ夫カセラインはミルトンと共にありしこと僅に十五ケ月の間のみ、琴瑟和樂の夢未だ醒ならざるに、早や無常なる風にさそはれて、一人の愛兒をわづかなる形見となし、北邙の夕の烟と消えうせぬ。噫その忘形見すら數月の間あいらしき面影を見せしのみ、涙の未だ乾ざる間に、これも同じく亡き母の後を追ひけり。マリーの殘しおける愛兒のうち、その末の女なるは、ことし僅に八歳にして、之を育はむこと盲目の鰥夫にかたかりければ、パゼット博士の媒によりて、ミルトンは遂にエリザベス、ミンシヤルといふ第三の妻を娶り、その世の旅の末路にあたりて、明暮の友となしたりしが、之も亦た謹愼の心深く思慮淺からぬ婦人なりしといへり。

千六百六十年王政復古とありて、クロムウエルの殘黨或は殺され或は物故り、ミルトンは五十二歳の曉におひて、一點の光をも認め難き世にあぢきなき盲者となりぬ。噫渠は眼の盲者となれりけり、されど心の盲者とは誰が事か、其盲者にあらぬところこそ、渠が哀觀のいやまさるところなりけれ。是に於て亡明の志士ミルトンは、獨り往時を追懷し、詩神を抱いて天地を窺ふに、その寂寥孤獨なる觀念は遂に名にしをふ三大詩とありて、汲めども盡きぬ無限の井となれり。

ミルトンの鬼籍に入りしは、エリザベスを娶りて十一年にあたる、其霜月の八日の事なりき。ミルトンは盲目の人となりしより、讀書執筆の二事を愛女に委ねしが、エリザベスはこゝに其良人を助けたりとは見ず、渠は愛女に書讀む業を敎へ、かくて其口より故人の聲を聽けりといふ。ミルトンの好めりしは、音樂なりき。彼は常に風琴を彈じ時雨の音のさびしさを聽きては、時に自ら唱いで、其妻をして掃箒の餘暇には、樂き風調を唱はしめしと云。音樂に

次ぎて渠の好みしは花間の逍遥なり。明を失ひてより其色を見るのたのしみはなきも、日々三四時間は庭園に徘徊して、花の香に天地の美をあはれむの風流を盡せしとなむ。

ミルトン千六百七十四年に物故りて後寡婦エリザベスは「パラダイス、ロスト」の版權を買ひ盡し僅に金八「パウンド」(四五十圓)を得たりといふ。

文學

鴨長明とウオイヅヲルス

左は、ヂクソン教授が亞細亞教會にて演說せられたるもの丶大意抄譯なり。

長明とウオイヅウオースとは共に厭世の詩人なり其物外に逍遥して山水風煙に嘯くのところ相肖たり其洛外大原の里に退隱せしと「ライダル」山頭に門を閉せしところ相肖たり其たのしみを「自然」の學びに搜りて無常迅速の浮世をあはれみしところ相肖たりかれは彌陀の影を追ひこれは基督の光を索めつゝも共に心やすからざりしところ相肖たり時鳥初音聞つるなどりにはしばしものこそいはれざりけれと歌ひしは

"Merry sing, cuckoo,
Now cease thou never now!"

と口吟みしに相肖たり行川の流絶えずしてよどみに浮ぶうたかたの世や榮華は唯ちりひぢにぞ似たりけるとかこちしは

"Alas! the joys that fortune brings
Are trifling and decay,
And those who prige the paltry things
More trifling still than they;
And what is friendship but a name,
A charm that lulls to sleep—
A shade that follows wealth or fame,
But leaves the wretch to weep."

うたのこゝろは

浮たちて見ゆるこの世のたのしさは
末あじきなきしるしなるらむ

と嘆きしに相肖たりさるは長明の物の象にしてウオイヅウオースの影なりしか何ぞその相肖たるの酷しき。

さはあれどウオイヅウオースが林間逍遥の辭に

"Move along these shades
In gentleness of hearts; with gentle hand
Touch—for there is a spirit in the woods."

または其「プレルート」のおはりなる與友辭に

"Prophets of nature, we to them (the nations) will speak
A lasting inspiration, sanctified
By reason, blest by faith; what we have loved,
Others will love, and we will teach them how;
Instruct them how the mind of man becomes
A thousand times more beautiful than the earth
On which he dwells."

といへる句の眞味を聽くものは世を詫びつくしたる長明に比べて「ライダル」の隱者が想を着けしことの高かりしを見よとなむ。

雜録

アルハマ落城 (押韻)(下)

雲峯子

九 さらにまた 語りいでけり アルファキは、
いとしろく 見えにける哉 そがひげは。
わが君よ 君はよくこそ つとめけれ。
君が身に 斯もなるこそ 正しけれ。
禍いなるかな アルハマよ。

十 グラナダの 花と讃へし アベンセレーヂ、
あはれにも 君がやいばに かゝりけり。
あだの軍勢 ゴルドバびとを なか〳〵に、
わが君は 待たせ給ひぬ ねんごろに。
禍ひなるかな アルハマよ。

十一 さればとよ あゝ聞き給へ わが君よ、
つみの報ひ 君にかゝらん 重ねても。
み位と 王國とともに 玉躰まで、
最後の 禍ひにこそ 滅びなめ。
禍ひなるかな アルハマよ。

十二 あやみの日 みくにの法律 やぶりなば、
法律もて さばきを享む やがてまた。
グラナダを かくてあだ人 せめとらむ、
むなしくも 君と御國は ほろびなむ。
禍ひなるかお アルハマよ。

十三 老人の 眼に火の穗 かゞやきぬ。
さても又 帝いたく いかりける。
老人が 法律といへるも 答へしも、
理りに 合ひにければ 正しくも。
禍ひなるかな アルハマよ。

十四 己れ咄 シヤもの〳〵し 聞きにくし、
さる程の 法律てうもの なかりけり。
ムーア王 かくも怒りて 罵しりつ、
老びとを 死べき身にぞ 定めける。
禍ひなるかな アルハマよ。

十五 アルファキよ ムーア人なる アルファキよ。
汝がひげの 眞白にあれる おひゝとよ。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

使者もて　帝は汝れを　召し捕りぬ。
アルハマの　滅亡を見てや　いかりけむ。
　禍ひなるかな　アルハマよ。

十六　仰ぎ見る　アルハマ城の　棟石に、
いと高く　汝が首級をば　晒すめり。
これは是　汝が身に係る　命ならん。
よそ人は　そを見て恐れ　戰慄かん。
　禍ひなるかな　アルハマよ。

十七　願はくは　いとも貴き　カバリアよ、
世の人に　いざ告げなゝん　わが言語を。
ムーア人の　帝王にかくと　つたへてよ、
いさゝかも　彼れに係はり　なきよしを。
　禍ひなるかな　アルハマよ。

十八　アルハマは　ふかく心に　かゝるなり。
堪えかねて　魂も消入るばかりなり。
わがみかど　王國をすべて　うしなふも、
わざわいは　わがくに民に　如かばこそ。
　禍ひなるかな　アルハマよ。

十九　父は子に　妻女は良人に　わかれけり。
大丈夫は　そが生命をば　おとしけり。
あるはまた　そが愛人を　うしなひぬ。
名を汚し　財寶を棄るぞ　多なりける。
　禍ひなるかな　アルハマよ。

二十　その折に　われは別れぬ　處女子に。
わが國の　いと美はしき　花也けり。
彼の日には　百のこがねを　拂ひけんも、
購なひに　ゆめ惜まじと　おもひしを。
　禍ひなるかな　アルハマよ。

廿一　老人の　言語はかくて　はてしとき、
人々は　そが首をば　はねにけり。
やがてそを　アルハマ城に　持ち行きぬ、
さらしけり　みかどの命に　從たがひつ。
　禍ひなるかな　アルハマよ。

廿二　かなしみぬ　長けたる人も　稚子も、
いとおもく　亦いとつらき　禍害を。
グラナダの　城郭のうちに　うちつどひ、

女子等は　ともに涙に　むせびけり。
　禍いなるかな　アルハマよ。
廿三　悲しみの　こゝろを示す　くろ衣か、
城郭なる　窓よりあまた　落けるは。
女子のごと　みかどは痛く　あげきけり、
いとつらく　また堪え難き　わざはひに。
　禍ひなるかな　アルハマよ。

學窓片々

ウイリアム、ペン坐上の箴

ペンシルバニア州の發見者創業者たる、名士ウイリヤムペンが、斯くも偉人物として世に知らるゝに至りたる其が祕訣とも云べきは、他なし、拔群の注意をもてそが兼て受し教訓を守りしと云ふの一事に據るなり。其敎とは何ぞ。即ち嚴父アドミラルペンが臨終に際し、當時猶幼けなかりけるウイリアムを枕邊近く呼び寄せ、無き後の心得にとて遺せる言の葉にぞある。曰く、余は實に現世に飽き果たり、望み得べくば斯かる生涯を再びせざらんとを。實に現世の困難は死の恐れに優るあり、かく言い、惠に富み給へる神の大御心を如何に苦しめ參する事かと恐多くは思へども、實に此日に至る迄曾て念頭を去らざる觀念にてあるなり。ヲヽ心すべきは罪の一事なる哉、生と死との何にも苦痛を招の刺針たるは之のみなり。今三の事理を示して汝が經世の訓戒とせん。第一、世の中に聊かたりとも御身の良心を穢さんと試むる物あらば之に近付くとを愼しめよ。斯る場合には、人を離れ、家内に在て、靜なる安息を保は盛大なる饗宴にも優と知れ。次は、何事にても成んと欲するときは、先づ手を膝にして、其事物の是非及時機を伺ひて後起べし。最後に云べきは、望を失へる場合に於て心を苦しむると勿れ、若し夫圖復の見込あらんには、思を煩はすに何の不可かあらん、されど之なき時に於ては、百計も一の功なきなり、よし企望は失たるにせよ、之を滿足せよ、攝理に從つて進まば、最後に平和と福德の都に達しゑん、况や患難は智慮を高と云に於てをや。余は汝が總ての禍惡に遠かり常に主の恩惠の豐ならん事を、神に切望す、而して神は必ず汝を惠み玉はんと。是實に俗世の波浪に解纜せんとする青年の爲の金言なる哉、而して數代の昔の青年に必要の訓戒は、豈に今日の子弟にも

切要する敎戒ならずとせんや。

○ナポレオンが心中の友

○ナポレオン、ボナパルトが青年の頃ほひ、即ち倘ほブリーチ士官學校に在學の中、デマシーと名くる一友ありき。爾後砲兵の役に入れる迄、常に共に在りき。異日ナポレオンが、パリー、トーロン等にて勳功を擧し後、一朝軍機を失し、從來の位地名望悉く身を離れ、今は全く閑散の界に望みなき寒貧生となりたる時、尤も深く其心を痛むるものは、たゞ慈母の上なりしが、彼を慰め其必要の幾分をだに滿足せしむべき微かの力だにあらず、万事凡て意の如くならざるを以て、意を決して一日果敢なくも身を水底に沒せんとし、とある河邊にさまよひぬ。時に後方に聲あり、呼でいふ、御身はナポレオンにあらずや、計らずも玆に再會を得し事の如何に喜ばしき事よと。顧見れば、職人躰の人にて、今や己れを暖かに抱きしめ、暫し言葉もなかりけり。之なん久しく會せざりし舊友デマシーが、今しも老母を氣づかひ、そを見舞んとて、假裝して佛蘭西に入り來りしと云にてありけり。ナポレオンが相貌の常ならぬを訝かり、逐一其理由を聞知るや、嬉しげに胴着の下より一の腹卷を取出し、欣然與へて曰ひけらく、とは差當り必要なき六百弗の金貨なれば、幸ひに君が慈母に與へ玉へ、との言を殘し、卒然去りぬ。ナポレオン晩年に至り、セント、ヘレナの獄舍に幽鬱の日を消すの頃、其上の此事を思出して曰らく、彼の時、余は如何なれば、一言の語ろふともなく、友の賜を受けるや、然かも餓渇たるものが得たる食を奪ふが如くに、之を受け、直ちに走りて母が許に至りぬと。其後十五年間、此友に面會を望みしも得ざりき。是れ蓋し、ナポレオンに會たらんには、昔日の厚情を感謝し、何かの報ひせんとするならんと察し、之をいとひ強ひて會合を避けたるなりと知られぬ。彼は實に一義士なり。

上州前橋に一つ、福岡縣三池に一つ、東北仙台に一つ、孤児院を創立せんとする計畫ありときく祝すべく又案ずべし。

問答

○ある乙女の問　　山下石翁

或女、近ごろ、さみしき心切りに起り、堪へられぬとの侍り、何故に候半と問ふ。

われ、答へて云ふ、凡そ、さみしきに三つあり、されど何れにせよ、人心變化の兆しにして、頗ぶる掛念すべき機なり、御身今までの感じ切りなりと云はゞ、よく〳〵用心し玉へ。そも〳〵人は、同情の生き物なり、譽れを覓むるも此の心よりなり、富を貪ぼるも亦た此心よりなり、彼の罪を犯して追はぎ、白波となる曲者も、實は同情を何處にか求めんとするより仕出來すと多きものなり、かゝる好ましからぬ心事すら大率ね同情の念ひに發す、ましてや、其他の多くの人の心は、流を此の泉源に發せざると極めて稀なり。男女の互ひに思ひを通はす、豈に卑き肉の上の樂しみならんや、たゞ同情をもとむるのみ。ホームの幸ひは、同情者の滿るがゆえなり。親子骨肉の愛のかたらひは、その同情の切なるによる。扨ても、かく同情を求め、同情に樂しみ、いよ〳〵切に同情に親しまんとして、つら〳〵人世の常態を觀ずれば、命のもろきと、痛める葦よりももろく、友の消易きと、ふすべる麻の火よりも微かなり。霜に似たる頭、霜よりも解やすく、浮雲に似たる身、浮雲よりも散り易し。金帳七寶の界、木の葉の落るが如く、綾羅錦繡の裳、蟬の衣よりも果敢なし。七十の命ち古來稀なりと云へど、七十の齢ひ長しと云ふ可らず。限りなき愛の想をもて、限ある世に切なき戀思を寄す、苦しきと何如にぞや。況んや、死の手は慘酷にして時ならず捉ゆるを常とし、吹かぬも花は散るべきに、山嵐心せわしく夜半に拂て落花泥土に埋もれゆく。實に人世は無常ならずや。此故に、愛情の切なる人は愛せず、何んとなれば、愛の末苦しければなり。もし一點來世に於ける信なくば、人を思ふは、思はざるに劣る。何んとなれば、思ふは即はち煩惱の種にして、苦悶之より生ずればなり。されば、熱情熱愛にして、悲しむべし來世の存在を確信せざる人は、故らに至情を矯めて、愛の心を抑へ、先づ同情の雛を殺して、異日一層の苦しみに會わざらんとなす。西行の世を棄てたるは是れなり。かゝる人は、甚はださみしきものなり。都も荒地の如く、人も立木の如し、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

天下心を寓すべきものなく、たとへば、富岳の雲表に卓出し四顧して友なきに寂々たるが如けん、身は朝市にありて、心は隠遁の山に入り、周邊の喧囂、野末に吹く一陣の冷風に異ならず。

かゝる、さみしさは、人の心大ひに進まんとするの兆なり。もし其まゝにて止まらば、一生つねに、さみしからめ。古への隠者これなり。世の常なきを観じて而して更に其上に常あるものゝ存することを悟らず、既に禪たりて、更に一進歩し、神の子たらざるがゆへ也。されば、さびしきは佳し、たゞ當に一奮し、その前途に存する光明を認ためて、不變、無限、常久、永遠の上帝に親和すべし。下より望めば、雲はつねに定まらず、然れども雲の上に達すれば、日輪はつねに照るなり。無常を観じて後有常に入るは即はち一進歩なり。

されば、世の果敢なきことを感じての「さびしさ」は祝すべきなり。一層さびしさを感じて而して後に進み玉へ。凡そ古來の聖なる人は、先づ一と度びは寂寞を感ずるものなり。砂漠を過てのちカナンに入る。御身の「さびしさ」もし之にてあらば今は一奮し玉ふ時なり。

また既に神を信じ玉へる後に、尚ほ「さびしさ」を感じ玉ふとならば、こは信仰の足らぬゆへなり。

以上二つの理由なくて、尚ほ「さびしくば」御身（乙女に對して言ひ居るなり）、今や、成年に達し玉ひしなり。乙女の成年に達するときは、何となく、さみしきものなり。男子は此頃ほひに事業を求む、女子は此頃ほひに、ホームを求む。されば尤とも愼しみ尤とも考へ深く念慮すべきは此機なり。さなくては輕々しき定めを生ぜん。

乙女の君、恥らふ。われも委しくは言ふことを得ざりき。

世界婦人禁酒會副會頭兼英國婦人禁酒會頭ヘンレー、サマーセット女史近日來航せられ暫らく本地に留まりて、女學及禁酒の為に働らかるべしとの報參りぬ。

時事

○勝敗決せり

非常の策を施こし、有ん限りの力を盡し、而して遂に吏黨の得たる處ろ、斯の如し。此れ大敗の證にあらずや。たとひ、松田正久、大井憲太郎、楠本正隆等の諸氏を失なへりとするも、其他の名士多く轡を揃へて、再たび復歸出陣せるを見るもの、何人か、民黨の大勝を疑はん。あゝ、大勢すでに如此し、内閣の人速かに一考せざる可らず。

○議長

星亨氏か、河野廣中氏か、大東義徹氏か、島田三郎氏か、抑そも曾根荒助氏か、渡邊洪基氏か、未來の衆議院議長たるもの果して何人ぞ。其撰定の何如んは、民吏兩黨が院内に於ける第一の勝敗を決せんとす。

○遊說

民黨の議員にして今期大ひに爲すあらんことを欲せば、之より以后二月、第三期議會開會の時に至るまで、四方に遊說すべし。而して成べくは板垣伯の再遊を煩はすべし。

○第三期議會

の形勢すでに察すべきなり、再たび大衝突せば、政府は之を何如にせんとす、再應解散すべきにあらず、議決輕んずべきにあらず、しかし乍ら。自由を爲すべきにもあらず、滔々たる大勢の波岸邊を打てば、小鷗何をもて獨り己がじゝ漂浮することを得んや。さりとて、全く水を離れて堯舜の聖を爲さんには、少しく俗に過ることを感ず、蓋し速やかに聯合内閣を造るべきなり、次官内閣(在野の名士を次官に擧たるのち)を造るべきなり。

○軍人政治

賴朝、庶弟を殺ろす、必らずしも心の慘なるのみにあらず、漢高、諸將を誅す、必らずしも功を忘るゝのみにはあらず、改革の業成れるのち、軍將の跋扈を制せんとして、實に止むことを得ざりしなり。維新の后ちに長州、早く達觀して、軍人を郷關に返す、偉なりと云ふべし。たゞ、西郷、桐野、篠原以下、薩將雲の如く集まりける陸海軍の餘勢に至ては、今の薩派大臣といへども、一歩を讓らざるを得ず。薩派之れが爲めに強きを増し、亦之れが爲めに弱きを加ふ、苟くも立憲政

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

躰に長久の內閣を打建んと欲するものは、先づ軍人の虎威と手を離たざる可らず。

○軍勢を報ぜんか

老武士追々に弱りゆき、民間別に戰ひに應ずべき人漸やく減ず、天下の軍人は即はち陸海軍の軍人のみと云ふ。之れ思はざるの愚のみ。徵兵令改まりてより、俊才、英少、多く軍に徵され、今や出で丶民間にあるもの極めて多し、彼等にして軍事を知るもの少なしとせんや、ことに思へ、兵法に達通し、軍機に敏なる老將官、皆悉とく、陸海軍の現役中にありや、而して鐵騎は初めより兵事の鍛練を經たるものにあらず、民情の激する所ろ、豈に幾多の鐵騎を召び起さずとせんや、目下形勢敢て悔どるべきにあらず、謹んで、一片愚衷の視察を當路帷幄の英雄諸公に上まつる。

○深夜輾轉の情

冷やかに言わば見ものならん、憂ふるときは前途果して何如んと思はるゝは、目下の形勢なり、刮目して、內閣に起る搖動の何如んを見ん、刮目して、民黨の掛引何如んを見ん、たれか、晩近の國事に胸をうたざるものやある。

米國通信（上）

山脇花子

着米後御伺申上度と筆取しは幾度か存不申候へ共種々なる事に妨られ不本意ながらも今日迄御無意に打過し申候前週水曜日より冬期休業に相成教員生徒も多く歸宅致し誠に靜に御坐候故今こそ兼ての希望果すの好機と筆取申候去ながら小妹事二週間計前より此頃流行のグリツプにて未だ全快と申までに至り不申長々書翰を認むるか書物を讀むか致すと頭痛を生じ困り申候夫故或は小妹が兼てより望居し程に充分申上難きかと存申候且考へも前後致すべくと存恐申候何卒御推讀の程奉願候扨小妹七月十六日横濱港を出帆致せしより十五日間海上誠に平穩にて廾日午后桑港に着致申候同處にて一泊致し翌日米國傳道會社會計フリント氏と同道にて同處より數英里なるチツクランドニ參り申候同處には長くとも數日間の滯在にて直に東京に歸り度と存居しもよき同行者のなかりしが爲に一ヶ月間逗留致申候桑港並にチツクランドには日本人も澤山參り居る樣子誠に同處の景況等は旣に御承知の事のみと存候間別に委しくは申さず候只チツクランドの有樣を一言丈申述べく候同處は東西四英里南北も畧同樣なる一市街にて人口凡五万計市中に二條の地方鐵道の設ありて只市中を往復なすには同處の人又他國人を問はず無料にて御坐候半時間每に往復致候間最便利にて御坐候其他電氣車鐵道馬車ケボルセーなど織るが如くに往來致申候同處にて桑港に比すれば實に閑靜なりと申も可なるべし town と名け居る處の數町を除きし外は每家に小廣き庭園の設あり四時共に靑草は色を失はず百花爛熳として其間に光を添へ桑港の busy city に職工店を持つ人が態々彼處に居宅を搆ふるも理ならめと存候ガス燈電氣燈は夜を照し恰も白晝の思あらしむ是等の事は先羨むに足られ共我日本に於ては何時此有樣を見らるゝかと待遠き感あらしめしは安息日學校の組織殊に小兒部の有樣なりし開校前開校後には各組生徒一室に集り十四五種の樂器を奏して讚美す奏樂者は十才計より十四五歲迄の男女子にて御坐候又敎授の方法など實によく行屆たりと存候先年齡に依て敎授の仕方は異れ共或は美麗なる地圖を用ゐて基督の旅行使徒の働を示し其間には基督とサマリヤ婦人との一話の如きを交へ其話のうちより眞理をわかり安き樣に實際的より說明し又生徒自らに其眞理を探らしむる有樣只斯く申せば別に何でもなき樣なれども實地に之を見し時私し心中に起りし感情中々此處に鈍き筆をもて寫し得る處にあらず各組に於て縱覽致すうちに每に心づきたるは最幼きは五六才の小兒あれども斯の如き幼き小兒迄も敎師の敎授中は瞬もせで熱心に敎師の顏を打守り左も面白そうに或は笑みつゝ或は首を傾けつゝ有樣はこれぞ敎師が幼兒の心を得て其注意を其一話に留めしむるの秘密を知るに依るかと存候私が是迄度々安息日學校の小兒部に於て困りしも決して小兒の罪にあらず家庭敎育彼

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

是と吐言を吐きしもみなあやまり只その教授の方法も知らず小兒の心を讀み得ざりしに依る事はしみ〴〵覺り小兒として此日の來るを待詫るに至らしむるもいかゞながら親の命にせん方無心は外に遊びながらも安息日學校に入り來る小兒の多きに至らしむるも皆教員の責なるや喜び勇んで席に就き今日は如何なる事を語り出さるゝやと耳そばだてゝ顔打守る程に至らしめてこそ安息日學校はいや增榮ゑ小兒の心に美わしき花實の種を蒔得る事と存日本に於ても早く智あり信ありて此秘密を悟り得たる教師の澤山出來たらん事望ましと存候次には同處の勵精會にて御坐候 "Golden Rule" に於て同會が如何に此國に勢力あるかは世に知らるゝ所なるが此會は諸教會の花といはんより寧ろ根と稱へらるゝに至りたりとか何れに於ても大抵各教會に於て此會は設け有る樣に云が小妹は參り居りし:: The first Congregational Curel" に於ては會員二百五十名計の男女青年なり其熱心は或は祈禱に或は感話にあふるゝ計此信あり此熱心ありてこそ活潑なる働もなし得べしと存候此會の斯く盛大に且事業も擧るも皆全會男女青年の協會一致にあるとなるや其相互に助け相讓り交際益密にして禮義愈嚴に實にあふるゝ計の愛情と團結とは妹に幾多の感じを與へしや悲かな筆鈍くて思のまゝ感ぜしまゝを述ぶる能はず妹日本にありし時に米國に於ては男卑女尊なりとか評する人あるを度々承りしとなるが此語の當否はさしおきてまづ當國婦人の有樣を見るに威ありて猛ならず嚴にして驕らず犯す可からざるの德其内に存するあるが如し故に男子も自然に敬するに至るも理ならめと存候此風俗が幾許社會の進歩を助けしかいか程男女の交際を潔からしめしか勵精會の協同一致し美はしき働きも此處に出づるかと是れも女子教育の程度男子と異るなく智識上に於ても劣る無故と存候何時日本に於ても眞實の女子の價値を正當に置かるゝ時來るかと女子教育に反對する方もお眼の早々覺る樣に望ましく存し候

扨小妹は思の外の長逗留に相成しを以てたとへ同行者無とも東部に參らんと決心致せし處都合よく神戸女學校に於て同級生たりし森靜姉のシカゴ近邊迄行との事故同行者の來りしを幸に九月二日午前七時チツクランドを發足致し六日午前にシカゴ府に着致申候同處に於て森姉と袂を別ち姉はエバンストン大學に妹はニューヨルク州なるポートパイロン（仝處は昨年鳥取英和女學校の教師たりしテルフオード氏の宅なり）に參り親切なる取扱 Second home を得し心地にて十日計逗留致し仝月十七日當校に參り申候橫濱に於て拜顔之節申上んと存候が妹が昨春頃長らく不快なりしを以て入學試驗の仕度も盡くはなし得ざりしが爲に已を得ず Special Student を志して入校も出來得べくは Scientific Course を盡く修めんとの決心なりし併し折角試驗の仕度も少しはなしたる事なれば用意せし科丈でも受る方よろしからんとの朋友の勸なりし故に當校に參りし節用意致居し數科を受申候然る處此一學年間に他は科目を自勉なし試驗受るならば Regural Student たるべしとの校長も許可ありしを以て其事に決心致今日にては正科生として Scientific Course を勉學致居申候其科目中一二科を撰んで一層に學び度とは存居候へ共先 Required せられたる科目を先に勉學致したる後の事と存候三週間程前に秋期試驗ありて直に冬期の業に取掛り居申候當期は鑛物、植物（Microscopic work）化學（定性分析）幾何、畵學、修辭學、舊約書等勉學致居申候植物、化學は Laboratory work の爲に每週八九時間位宛費し申候隨分面白く存候當校の有樣を大畧左に申述べく候

當校は一千八百三十七年彼メレー、ライオン孃の創立せられしものにて御坐候當時は女子教育などにはあまり眼を注ぐものも無時代故折角學事に志すものあるも空しく其望を捨てざる可からざる有樣なりし一例を擧ればライオン孃或大學に入學志願せしも女子なるを以て許されず漸く敎場外に立ちて聽聞する事丈を許されたりとか此時代に於て奮然一學校を女子の爲に起さんとは難事なりし事知るべきなり當校創立の摸樣は仝孃の傳記中に御坐候事故之を畧し只現時の有樣を可申述候當校は Mount Holyoke Colleges と稱せられ共ホリオツク市を距る事數英里なり South Hadlry と申一小村中に在り東南には Prospect と申小山あり西北には Mount Loun and Mount Holyoke を望みカ子カツト河西北を繞り流れ實に閑靜の處なり學事に志す者の撰ぶ處なりライオン女史の此地をトせられしも理ならぬ校の地面は七十五エコルス（殆ど三十町）（?）南隅には周回十丁計の池あり小舟八艘ありて生徒の遊に備ふ四時混々と流れを競ふ數小川 Prospect の麓を回りて彼小池に水運ぶ處に人造の瀧あり此處に架する橋を Stone bridge と名く生徒其日の業を終へ散歩して此處に來る者は誰しも此橋上に立ち夕日の池面に映ずるの美を幾度見るも珍らしきものゝ如く數分間眺めざるはなし楓は小川の兩岸に並立し更らに錦をはなつ秋に景高尾の景にもおさるまじ其西に Botanic Garden あり植物學教師の寶藏なり

歐洲亞細亞其他所々萬國の珍らしき花草を植え春秋は百花美を競ひ珍らしき匂をはなち植物學生徒の外は自由に折り取るを許されざるぞ惜なし一朶手折りて机上に眺めたやと思ひし事屢なり其中に小泉ありて花は日本の如く大ならねど桃色白の蓮花咲きしは九月中頃なりし園丁の勤勞一方ならぬが爲に今年は昨年より一層見事なりしとか夫より數丁東に上る處 Scientific Building あり此れぞ Williston Hall と名づく當國の一豪家 Williston 氏の寄附建築せしものとか高大なる煉瓦造なり先づ Basementei より參りませう室數十一個內二室は動物の解剖並に實驗（製造場 Skelton の）場中央の二室には鯨骨其他の珍らしき魚類の骨あり其內には三四百年の昔に住みしものありとか他の二室には魚池（動物學科の爲）植物室なり又物理實驗室夫より二階に上れば室數九個北西の二室は植物學實驗場にて數千の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Specimen 陳列場其內に在り窓にそひたる十有餘個の大なるテーブルあり其上に一人毎に小なる開き戸の押入並に引出ある小箪笥の如きものありて顯微鏡其他植物試驗に必要なる諸器械諸藥品其中に在り各生徒の姓名を記して他人の自由に之を用ふる事を許さず机上に水こぼしあり清水の細管より流れ出るもの此れを通りて外に出ず此室の西部に書籍室あり植物學書數百卷ありて生徒の縱覽に供す其他多くの model 是にて發芽の有樣を示すあり或は果實の內部をあらわすものあり無數の model を用ゐて勉學に便利ならしむ東方には物理化學の教場あり東南に化學實驗室あり試驗臺は四行に並び中央に大なる水箱ありて水下試驗の用に供ふテーブルはトタンばりにて一人に一個の水 Sink 並びに清水管あり臺の上に三重の棚ありて藥品陳列す臺下に一人前三個の引出しに一個の押入れありて自用の諸器械を納る臺の正面に各生徒の姓名を記す西北隅には大なる蒸餾器並に Generater あり隣室は即ち化學物理の書籍室あり南部の大なる二室は動物學教場並に試驗室なり試驗室の摸樣は畧植物試驗に似たり此處にも仝じく多くの顯微鏡並に諸器械室あり此れに連る室は動物書籍室、鳥類、次は貝類、獸類の骸骨等の諸室なり鳥類の種類は殆ど二百に近きとか（未だ此科にあらざれば委しくは存不申候）珊瑚は多くはマイクロニシヤより來りしものなりとか其次に生理學教場あり三階には地質學、鑛物學教場、文學、歷史、諸教場之に屬する書籍室、獸類の Lasts 陳列室、鑛物の Speci men 陳列場、諸國貨幣並に歷史上有名なる物品、室數九個四階は四室 Art Gallesy にして有名なる Michael Angls Fra Angelico Fians Domentchire 等の美術家の畫並にビナス、ダイアナ等の像等にて此四室を滿す此 painting の中には五百圓位の價あるものもあるよし此建物の圓部悉皆を巡ぶるには時を要し又私も充分に存ぜぬ處など多ければ先此位に致して他に移りませう此 Williston Hall の西南に當りて鍊瓦造の巨大の建物あり東に向ひたるを Main building と名づくこれ今より五十四年前ライオン女史の始て此校を開くに當り建られしものなり禮拜室、講議室、四個餘 Girls' parlours 並に數學教場フレニチフ、ジヨルマン、ラテン語教場凡十餘教場は皆此 Main building に在り此建物に續きて南側にあるを South Wing 北に在るを North Wing と名づくは事務所の客間と North Wing にあり幹事の事務所郵便事務所醫師診察所一個の客間（應接間）にて South Wing あり而して此南北兩翼を續くる處は體操場、洗濯場、體格試驗室等なり食堂炊事所は Main building の一階にあり南北兩翼し basement には大工職場とか Ruitu room とか澤山ある樣子なれども火事場の外は餘り用事無き處故委細は存不申候）Main building は六階にして兩翼は五階兩翼を續くる處は三階にて御坐候教員並に生徒の室合計殆ど二百室各 Corridor に一名或は二名の教員あり此 Main building に續て北に長く延びたる棟は書籍館並に新聞縱覽所ありて部數凡そ五万の書あり小妹未だ來校後日淺く只日程に關する書類の外は一覽するに時を得不申故に何れの種類の書多きかは存不申候書籍館に於ては默讀にて素より談話を禁じあるを以て安息日等の如きは殆ど館內に滿る程の大人數なるも針の落つる音も聞ふると申程に靜なり。

女報

可愛子編

●北白川宮妃殿下　北白川宮妃殿下には、去九日午前十時三十分新橋着にて歸京せられたり。

●盲啞生徒の會葬　山尾子爵夫人は、東京盲啞學校の爲めに頗る盡す所ありしが此度病死せられしに付、同校教員生徒は會葬の節靈前に盲生の悼詠を呈したり。

今日よりは誰をたのまん吾ともの母と仰げる君逝きしのち　佐藤國藏

母せことたのみしかひもあたし野の露と消えにし君ぞこひしき　佐々木吉太郎

●華族女學校の奉祝　華族女學校にては、去る十一日紀元節の當日午前九時より職員生徒參集し、同九時三十分御眞影奉拜、次て唱歌祝辭音樂を奏し、畢て職員へは酒肴、生徒へは茶菓を供して、正午頃退散せしよし。

●靜修舍　過般麴町區有樂町三丁目一番地へ新設せし該舍は、近來女子の粗暴にして不德に化するを憂ひ專ら優美恭倹の特性を養ふ爲必要なる裁縫、料理法、女禮式等を敎へ、兼て點茶挿花の技藝を懇切に教授する由。

●幸田信子　ヴハイヲリン練習として、伊太利國へ留學を命ぜられたる幸田信子は、來る五月留學滿期皈朝の筈なりしも、尙向二ヶ年の延期を命ぜられたりと云。

●內職の不景氣　婦女子の內職は昨今景氣至て惡しく、四五月頃に到られば景氣引立つまじと云へり、玆に其の一二を示せば、足袋十足に付五錢五厘、マッチ箱張り千個に付四錢五厘、ハンカチーフ上等一枚四錢三厘、仕立物は袷羽織一枚十錢綿入一枚十三錢、小袖一枚廿錢より廿五六錢、洗濯物は單物一枚二錢、シャツ一枚一錢五厘、足袋一足一錢五厘、袷一枚三錢五厘、書簡袋張り上等百枚五錢、より七八錢迄、下等百枚二錢五厘、女髮結島田五錢丸髷其他四錢より三錢五厘、シャツ縫上等一枚一錢より一錢三厘、下等一枚六厘より八厘位、なりと云ふ。

●慈善舞踏會　松方政子、榎本たつ子、土方龜子、樺山登茂子、陸奥亮子、高嶋春子、毛利安子、花房千鶴、鍋嶋榮子、三宮八重野の諸氏幹事となり、赤十字社病院に於て貧困患者入院施療の設なきを憂ひ、一昨年十二月を以て第一回慈善舞踏會を開き其收得せるものより、一ヶ年間卽ち廿四年內に在つて、同患者八名に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

入院を許し、之れを施療するに耐ふ可き資さして當時金一千五百餘圓を寄附せしに、果せるかな其企望空しからず七ヶ月間に二十九人の患者を施療し、尙七百圓近くの金を餘すに至れるを歡び、更に本月廿六日をトし第二回慈善舞踏會を、內山下町帝國ホテルに開設し、本會を廿五年に繼續し、永く貧困患者をして此福惠に賴らしむる目的なりさ云ふ。

●結婚媒妁統計表　東京日本橋區檜物町一番地渡邊結婚媒妁所は、設立以來十ヶ年に至れり、近年に至りては益盛大に趣き、一ヶ年二千數百名の依賴者あるに至る、即ち昨廿四年の統計表は左の如し、

呉方總計八百七十名

內譯	
嫁呉方	五百名
聟呉方	二百八十名
小兒呉方	九十名
右總人員族籍內譯 華族	十五名
士族	四百卅名
平民	四百廿五名

貰方總計六百六十名

內譯	
嫁貰方	四百九十五名
聟貰方	百廿名
小兒貰方	四十五名
右貰方總人員の族籍內譯 華族	七名
士族	三百廿名
平民	三百卅三名

右總人員の內整緣の者四百四十名なり。

●食人　鬼あり白耆和田峠に現る、後報に依る姦せるは實なり、啖へるは虚なり、日本鬼なし。(東京新報)。

●ナイツ夫人の死去　福音教會のナイツ夫人には、此程來天然痘に罹りて病臥中なりしが、あへなく異鄉の露さ消へられしに付き、遺骸を火葬に付し、去る九日築地福音教會に於て、其葬儀を執行せり。

●前橋學校の母姉會　は二月十一日午前九時より開會せらるゝ由なり、其目的ハ家庭敎育さ學校敎育さの聯絡を通ずるが爲なりさ。

●忠婢五代の主に仕ふ　栃木縣芳賀郡長田村鶴見そめ女は、本年八十一才の高齡なるが、十四才にして始めて常陸國下館藩士奧山某の妻に仕へ、爾後六十餘年の久しき、五代の主に仕へて勤勉怠らず、先きに安田茨城縣知事は、賞金を下賜したるが、爾來益々怠りなく今尙其主を輔翼し居るさいふ。(婦女雜誌)。

●大阪に於ける藝妓の取締に就て　本年一月大阪府令第三號を以て定めたる藝妓取締の件に就ては、其施行の延期或は居住區域の擴張を請願せんさて相談し居るものもある由なるが、其筋の人の話を聞くに、右等の請願は聞屆けられざる事勿論なれば、万一此等の願の採用せらるゝこさもあらんかさの事を賴みに、轉宅の用意をも爲し居らざる如きものあらんには、期日に至りて狼狽するさも其詮なく、又近頃は自己の利益のために、矢鱈に此等の事を勸め立つるものもある趣なれば、斯る者の言を信じて費用さ時日を費し居る者もある由なるが、新町にては、去る十一日取締事務所へ廓內の藝妓一同を呼集め、府令第三號の藝妓取締實施は決して猶豫延期等を聞屆けられぬさの事なれば、今より其心持にて、以後は區域外に宿泊等は成たけせぬやうにさ言諭せしさの事なり。

●大阪一致女學校　同校の文學會は、本月十二日開會せり、甚だ盛なりき、同校は近々校名を浪花女學校さ改め、同時に規則などをも修正を加へ、大に生徒を募らんさて、主幹坂口氏は晝夜盡力せらる。

●私立江戸堀女學校　大阪地方裁判所の書記を勤めらるゝ中根庸氏は、此程感ずる所ありて、標題の如き女學校を設立せんさす、其目的は慈善家の寄附金を以て學資に充て、無謝儀にて日用適切の學科を授け、優良實用の婦女を養成するにありさいふ。

●長岡救世婦人會　越後長岡の同會は、去る十四日其事務所なる長岡本町大字觀光院町救世本院內に於て例會を開きたりさ。

●送別會　仙臺敎會長老にして、宮城女學校教員たる小柴忠七郞氏は職を辭して上京せらるゝに付、去る五日教會に送別會を開き、來會者七十余名ありたり。

●産婆試驗　新潟縣下本年第一回產婆試驗は、來る四月二十日新潟市に於て執行するに付、受驗出願者は右期日一日前までに、宿所氏名を本廳へ屆出づ可しさ、去十二日告示二十三號にて同縣知事より達しありたり。

●伯州境婦人會　同會は婦人の位置を高め風俗を矯正し、兼て婦道を研究するを以て目的さするものなるが、去る三日其集會を開きたるに來會者數十人ありて盛會なりしさ。

●滋賀縣通信　◎人口統計　縣下の人口は、男三十三万六千百十四人、女三十四万二千六百二十九人なり、日本全躰よりいへば男百に對する女九十七、九二なるに、縣下は男百に對する女百〇一、九四さなるなり、一年間の出產二万千二百六十七人の中、千五百十四人は私生子なり、一年間の結婚五千四十二人、離婚千百九十一人、一のホーム(若しホームさいふを得ば)を作る所の人員、四人九七の比例にして、一方里每に二八五九九の人員に相當せり。

◎酒類釀造　縣下釀酒營業人三百七十人にして、此造石類五万八千八百石、此外自家用料造酒人二万二千三十六人あり、實に驚くべきの事質にあらずや、此故に人口一に對する造酒高は自家用料酒を除くも尙八升六合六勺余さなるなり、若し禁酒家或は婦人小兒の多數を除き算するさきは、男子一人の飲料は非常なるものにして、其結果は不義不德!。

◎長濱製絲場　は同地の豪商下鄕傳平氏等の創設せし會社にして、目下百名の工女を使用す、多くは養蠶熱心家の女子にして、製絲を學ばんさの志あるものにして、之によりて糊口せんさするものは殆ご之なしさいふ、今年の新晴よりは更に五十名の工女を新募せんさて、目下工事中なり、工女中やゝ熟練せるものには一ヶ月につき一等工女八圓、二等工女七圓位の賃金を給すさいふ。

●三重縣通信　◎三重婦人會　にては、去る六日丸の內三重私立女學校に於て例會ゝ開き、高田派專修寺の僧侶松山忍明氏を招きて講話を聽きたり。

●京都通信　◎外國人の寄附　英人バックストン氏の令妹より、今度千六百圓を震災孤兒院に寄附せり。

◎梶谷仲子姉　同志社病院の看護婦なる同姉は岡山の人にて、昨年看護婦學校を卒業し、今はいさ質素に同病院內に働き居らるゝ人なるが、常に熱愛を以て病者の爲めに盡し、或時は一人の年少なる病者の爲めに、夏期休業中も全く休まず、夜の目も寐ずに祈禱さ愛の働を續けたるとあり、或は同志者の一生徒某の貧苦を憐み、小使錢を集め置きては、苦しき中より足袋下駄等を送り與へたるとあり、同志社の學生等の入院する者には、殊に種々なる信仰上の忠告を看護さ共に與へ屢々學生の責任などを說きて之を勵ます、曰く將來主の爲めに大いに働くべき責

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ある身、何さて食慾位に擒にせられ給ふぞ、曰く他日大に爲すあるべき有望の身、何さて信仰に冷かになり給ふぞなど、屢入院者の耳にする所なりさぞ、又同姉は多忙中にも拘はらず傳道の事を忘るゝとなく、日夜暇あれば之が爲めに働く、今は四季教會の爲めに盡力せらる。

◎結婚　本月十日平安教會に於て、同志社ハリス理化學校教授兒玉信恭氏さ、梅花女學校卒業生前神松江氏さの結婚式ありたり、松山高吉氏式を司り、賓客凡そ數十名。

◎施療　從來同志社病院にては、赤貧者の患者には無代施療し居りしが、本年も此が爲に用ゐんさする預算金額三百圓餘なりさ云ふ、然して患者に用ゆれば大凡毎日十名許の見込なりさ云ふ。

◎同志社女學校生徒　は本月十一日午前第九時より、同志社禮拜堂に會し、男學校生徒さ共に紀元節祝賀の式を擧ぐ、松山氏の祈禱、小崎氏の感話ありて散會せり。

●廣島縣通信　◎高等女學校　は職員十四名、(校主)山中正雄氏、(幹事)高間彌之助氏、(講師)松岡みち子氏、高間彌之助氏、秦かひ子氏、島村かめ氏、三宅富次郎氏其他は授業生なり、生徒の數目下四十名。

◎一般の女子教育　は次第に進歩の域に進みつゝあり、高陵女學校、英和女學校等益々隆盛なり、殊に英和女學校は大に信用を博し、生徒日に増し加はるの勢あり。

◎藝娼妓　は漸次に跋扈し、田舍の人民を蠱せんさ欲するものゝ如し、之を憂ふる矯風家は運動をはじめんさす。

●福井縣通信　◎產婆習熟試驗　福井縣足羽郡東鄉村產婆講習所に於て、產婆習熟試驗を擧行せしに、受驗者四名ありて何れも及第し、同縣今立郡上池田村產婆講習所にても、同試驗を擧行したるに、受驗者五名あり何れも及第したり、斯く續々習熟產婆を輩出するは喜ぶべきことにこそ。

◎女鑑　福井縣下越前國今立郡服向村大字高岡の上坂りう子さ云へるは、上坂耕治氏の妻にして、耕治氏久しく肺を患ふ、りう子日夜看護怠らず、五年一日の如く、夫の全快を天滿天神に祈り、自ら誓ふて終生梅實を食はず、而して夫死する前一年より短氣變鬱事毎に叱責す、りう子唯々夫を慰め看護益す勤む、醫某云ふ耕治氏の重患に陷り、而して久しく存命したるは、全くりう子が愛を込めたる看護に由れるなりさ、而して命數限りあり、耕治氏昨年春逝去したりけるが、りう子は其遺子巖を養育し、日々之を學校に通學せしめ、只管其生長を樂み居れり、隣邑鄉閭りう子の節操を嘆賞せざるものなしさ、りう子本年三十二才、亦得がたき婦人さ云ふべし。

◎產婆及醫師の數　最近の調査に據れば、本縣下の產婆及醫師の現在數は、產婆四百三十九名、內昨年中に免許を受けしもの九十四名、又醫師の總數五百四十名あり、內醫學士三名、試驗免許醫九十四名、卒業醫三十九名、履歷免許醫二十一名從來の開業醫三百八十五名なり。

●福島縣通信　◎鈴木慶次さいへるは、福島縣岩瀨郡西袋村一農家の子なり、明治廿二年五月を以て同郡須賀川高等小學校に入學し、高等第一年級に編入せらる、時に年十五、爾來刻苦勉勵、翌年春に至りて高等三年級に超進し、今は高等四年級に進み、常に級中の首位を占む、此生徒たるや沈默剛直、輕佻の行なく傲隋の容なく、爲さんさ欲する處遂げざれば已まず、入學以來殆んご三年、烈寒酷暑の時、狂風怒雨の日さ雖さも、欠席せしとなく遲參せしとなし、唯昨年洪水の爲橋架設落の際一日欠席せしのみ、三冬夜學の候に至れば教師の寓所に至り讀書數刻、夜二更に及んで乃ち皈る、吹雪面ヲ撲ち寒風耳を劈くの夜さ雖さも、休みしとなし、同時人家は學校所在地即ち教師の居處を距ると一里强、人家三四點々各所に散在せる開墾地に在り、森林蔚然前に茂り、田野數頃後に漠々たり左右萱萩に非れば則ち榛莽、夜間唯聞く狐狸の聲、日中唯見る萱榛の色、家を出でゝ半里許は、樹林路を塞ぎ、或は朝露衣を濕し、或は萱穗顏を摩す、蕭條さして古來刧盜の出でしと幾回なるを知らず、實に日中にてすら氣味惡しきに、慶次は學を好むの餘り、凄然たる此境敢て意させざるなり、沿道の農民にして慶次の夜間通學するを見しもの皆謂ふ、嗟吁慶次は勉强なる哉、月明には則ち步行しつゝ筆記帳を開き暗記を爲し、闇夜には則ち暗誦を試み辨舌を練るさ、又以て苦學の一斑を察するに足るべし、家素さより富裕なるに非れば、皈宅の後は家業に從事し、餘暇あれば讀書或は算數をなす、用ふる所の教科書類は讀本に至るまで悉く自ら之を筆し、罫畫の器具等は悉く之を自作し、父母をして學資の苦情なからしむ、一日師膽力養成の事を談ず、慶次乃ち休日に至り握飯を腰にし、八里弱なる白河に遠足を試み、即日皈宅し、翌日平常の如く出席し、毫も疲勞の色を示さず、其躰力强勁にして健足なる亦知るべし、先月第三回小試驗に當てや、答案衆に後れたり、時日正に西山に傾くを以て、師翌朝差出すべきとを命ず、慶次則ち翌朝未明に家を出で當直者が未だ起床せざるに先だち出校せり、其勉學力行の狀概ね斯の如し、故に學校より郡役所より賞與を受ると數回に及ぶ、實に希有の勉强なる生徒なり、慶次自ら軍伍に入らんさ欲し、兼て躰力を養ひ今は力量飽まで强く、學生は勿論教員中に於ても、角力角觝等に於て勝ちを取るもの希なるに至る、嗚吁慶次の如きは隋童の龜鑑さなすに足る、又世俗文弱に陷りたる今日此尙武的の生徒あるは實に嘉すべし、後來必す爲す所あらん、姑く貴社に投じて以て將來の成業をトするのみ、

●朝鮮宮闕內の怪異　近年朝鮮王妃中宮殿頻りに病に罹らせらるゝは、彼の十七年の變に死亡せし人々の亡魂祟りをなすなりさ言ひ觸らしたるが、頃日闕內にて魑魅の變あり、夜半狂叫の聲物凄く聞ゆるかさ思へば、瓦石屋上に飛びさまよく、奇怪の事あるさて、頻りに呪咀祈禱を行なひ、妖邪退治に着手したる由、韓人は之を以て李氏覆滅の前兆なりさ云ひ居れり。

●チスボルン夫人の自首　(倫敦二月六日發)

彼の重大なる眞珠事件犯罪人チスボルン夫人は、其眞人の經歷を毀傷せんとを避けん爲め、ドヴアーに於て自首せり。

品名	十二月八日
白米(一石付円) 一等米	九升九合
二等米	一〇〇
三等米	一〇二
四等米	一〇五
五等米	一一一
正米(一石付円) 尾張米	一斗二升八合
越中米	一四六
肥後米	一三四
土浦米	一三九
一志米	一三五
雜穀(一石付円) 本貫大麥	二斗七升五合
上州小麥	一七〇
竹林麥	一八〇
梅澤大豆	二〇〇
青柳大豆	一九六
吟小豆	一六二
白胡麻	一二八
黑胡麻	一五〇
醬(一石付円) 赤穗醬	三、二五
大醬	三、三五
本醬	三、五五
新醬	五、八五
醬油(一石付円) 最上	樽外價 七五 七九
極上	八七 一、一〇
上物	一、三〇 一、六〇
中物	一、八〇 二、〇〇
並物	二、一〇 二、七〇
味噌(一貫付円) 地製上白	七、〇〇〇
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、〇〇六

品名	十二月八日
絹糸(一斤付圓) 本練花紺色	二七〇
同色物	二五〇
羽二重糸色物	二四〇
同稀黑	二八〇
延原太筋	三三〇
芥子糸色物	二九五
同薄色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四五〇
白木綿(一反付圓) 玉鶴	三、五〇
綾鶴	三、八〇
日の出鶴	四、一〇
若柳	三、二〇
稻岡	三、五五
見玉	三、八五
蓬來	四、〇五
古新	三、〇五
間銘	三、八〇
眞綿(一貫付圓) 飛入金	一一八、〇〇
上入金	一〇八、〇〇
並入金	一〇〇、〇〇
濱縮緬 大巾上駒	五、五〇
小巾百廿目立	五、四〇
花色絹糸好(一圓付) 八十目附	二六、〇
九十目附	二七、〇
百目附	二八、〇
同小節絹 生八十目附	四二、〇
同本秩父絹 生百四十目附	四七、〇

品名	十二月八日
製茶(一貫目付) 山城江州稀大頭	二、五五
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七五
同中頭	一、五五
同中茶	一、二〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、五〇
同中頭	一、三五
同中茶	一、一〇
乾海苔(一百枚付) 洲崎	九〇
大森	八五
深川砂村	九〇
大師河原	七五
潮田	五五
炭(一圓付) 伊豆上	四、五〇
同中	五、〇〇
同並	六、五〇
角備上	二、九〇
丸備上	二、三〇
淺上	四、〇〇
水油(一百斤付) 地水	六、五五
胡麻	九、九〇
荏油	九、七〇
桐油	五、七〇
綿油	…
坂水	七、五五
石油(一箱付) チヤスター	
デボース	一、七五
ホーキ	一、七四
ロシヤ	一、七三

震地傳道隊報告

婦人矯風會錄

●入の部

前回迄入合計　〇金二百八圓二十六錢四厘

〇金一圓二十五錢　右内澤

一金五拾錢　建部子爵令夫人
一金三拾錢　岩崎常子
一金貳拾錢　無名氏
一金拾錢　無名氏
一金五錢　無名氏
一金拾錢　無名氏
計金壹圓貳拾五錢

右震災地傳導隊の主趣を賛成し義捐相成候間可然御取斗被下度御紹介申上候也

二十五年二月　宮田駿逸

〇金五拾錢　河合まさ子
〇金五拾錢　無名氏
〇金五拾錢　無名氏
〇金拾錢　無名氏

合計二百十一圓十一錢四厘

●出之部

前回迄出費合計　〇金二百三十二圓七十一錢五厘

〇六十七錢　名古屋へ送金通運領
八錢　同所へ送狀郵券ハガキ　(十日)
三錢　石井十次兄へ送狀　(十一日)
二錢　大垣自助會へ送狀　(十二日)
二錢　大垣自助會及本田淸氏へ送ル寫眞
四十錢　二葉
四錢　右送附代
四錢　橫濱共立女學校へ禮狀及寫眞送附代
四錢　佐々木榮受郎、松田順平、二氏へ寫眞送附代　(十七日)

合計二百三十三圓三十八錢五厘

差引不足金二十二圓二十七錢一厘

第四版

百人一首講義

上製美本　三十五錢　郵税六錢

新年の讀書に宜し　歌留多遊びに宜し

遺物に宜し　詠歌に宜し

女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新刊少年園目次畧（一月三日後の分）

○烈女グレース、ダーリング怒濤を冒して難波船を救ふ圖。（附肖像入詳傳。）
○孤兒の友、マーガレットの傳。（附紀念碑の圖。）
○近體の文章を綴る法　學海居士。
○少年ノ誡　故文學博士、中村正直。
○東西叢談　工學士、大竹多氣。
○太陽ノ吾人ニ及ボス力　理學士、蘆野敬三郎。
○大英雄出よ世界の恩人出でよ　湖處子。
○少年養生訓　醫學士、山縣正雄。
○齋藤別當實盛…淺井忠畫。
○ゲーテの幼時（肖像入）○議院の解散（挿畫）○懸賞文題（賞品時計）（挿畫）○白象國（挿畫）○珊瑚の話（挿畫）○西國少年鑑（挿畫）

毎月三日十八日發兌。一冊金五錢。十二冊（半年）金五十五錢。廿四冊（一年）金一圓。郵稅一冊五厘。爲替拂渡局駒込郵便局。

發行所　東京府下北豐島郡上駒込村（電話四三八番）　少年園

早稻田文學第九號目次

釋義
詩經　信夫恕軒氏
萬葉集　畠山健氏

講述
德川文學　關根正直氏
俳諧論　饗庭篁村氏
漢學の現在及將來　森田思軒氏

雜錄
敬香文學論　大江敬香氏
詩話　野口寧齋氏

時文評論
●烏有先生に答ふ其一（逍遙）●其二●小羊子の白日夢其一（小羊子の來しかた）●其二（小羊子の愚痴）●明治廿四年文界を懷ふ（不知庵主人）●和歌につきての說くさ〴〵●廿四年詩海の風潮●謠曲と文學●近刊諸雜誌●新刊

附錄　八犬傳諸評答集

二月十五日發兌　代價一冊九錢　郵稅二錢

發行所　東京專門學校
發賣所　神田一ッ橋通　有斐閣

產婆　本鄉森川町一番地百七十號　慈善看護婦會內同居　玉生くに
女醫　下六番町六番地明治女學校（校醫）內にて外來患者を診察す　荻野ぎん
迎接日　木曜日午後三時後　巖本善治

● 團々珍聞 第八百四十四號 二月十三日發刊 大改良

毎土曜日發刊一部定價六錢郵税五厘
二十部前金一圓二錢郵劵代用一割增

方朔躍リ一休舞ヒ曾呂利謡ヒ一九笑ヒ滑稽諧謔ノ化物屋敷然タル者ハ何ゾヤ人問ハズノ我團々珍聞タルヲ知ル嗚呼戯文狂書自ラ特色ヲ帯ヒ其間無限ノ寓意能ク世上ノ利害得失ヲ論シドン〳〵ピシヤ〳〵遣ツ付ロ節平トシテ無限ノ愛敬アルハ我團々珍聞ノ本家本元専賣特許タル所ナリ今回更ニ紙員ヲ增加シ**表畫**ヲ彩色木板摺トシ**口畫**モ亦彩色木板**附録**等ヲ添ヘ處々ニ小挿畫ヲ加ヘ就中客員**櫻痴居士**等新客員ノ小説戯文ヲモ掲ケ一層紙上ノ躰面ヲ新ニシ世上ノ出來事ハ瞬間之ヲ文ニシ畫ニシ其掲載ノ速ナル電光石火敢テ日刊新聞ニ譲ラス**不偏不黨**吏トナク民トナク筆誅諷諭以テ明治聖世ノ滑稽政治雑誌ノ巨擘ニ背カサル可シ

發行所 東京神田區雉子町 團々社

新年初刊の女學雑誌には、**附録**あり、親に後れし後の述懐と題する「すゞ子女史」の文あり、彼の一夜と題する「山月子」の文あり、人生に寄すてふ無名氏の譯文あり、請ふ一讀せよ。

保育園規則摘要

位置 本園は麴町區一番町十二番地に設置す

目的 世間往々自宅にて嬰兒を保育しかぬる事情あるを以て其人々の依托に應じ容易く保育の便を圖る者とす

整理 本園は小兒科及衛生家中有名の諸大家に就き鞠養保育の方法及嬰兒の健否を諮り一切の庶務は本會役員の監督に屬するものとす

園兒 入園を許諾する嬰兒は生後三十日以上とす但現に疾病に罹れる者殊に傳染病を患ふる者は一切謝絶するものとす

食物 保育兒の食物は衛生の原則により各年齢に從ひ適當の調理をなすと雖哺兒乳は精撰の牛乳を以て養育するを常則とす

入園料 特等一ヶ月金七圓並等金五圓とす

但會員の照介にかゝる貧困の嬰兒は慈善のため保育救助することあるべし

目下欠員あり規則書御熟覧の上速に御申込ありたし

大日本婦人衛生會附屬 保育園

看護婦生徒募集廣告

此回本社看護婦生徒ヲ召募ス志望ノ者ハ本月中本社病院へ申込ム可シ但シ年齢二十歳以上三十歳以下身幹四尺六寸以上ニシテ健康獨身ノ者ニ限ル猶規則並ニ申込手續ハ南豐島郡下澁谷村字笄閑谷病院ニ就テ承合スヘシ

廿五年二月十七日 日本赤十字社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學生

二拾號去ル一月廿一日發兌セリ

額上の汗……星野愼

漫録

病中雜感（苦腸百回、愛の攝理、主と我等、先づ己に反求す、愛と慾、至不至、神の前と人の前、小心と大膽、愛すべき愛よ、烈火と熱涙、最も寂しく最も賑やかなり、德）……山月子

百感雜筆（義は譲ることを爲す、感情は水蒸氣に似たり、浮世書上の難字）……晴光子

雜録

新年祝……（女子學院）小出千香子

細君（アーピング作下半譯）……（明治女學校）波多野祐子

故山の日……（女子學院）瀧口みか子

新年附録小説

太刀創……晴光子

一冊六錢　女學雜誌社發兌

女學生全盟各女學校は左の如し

○明治女學校○女子學院○女子神學校○共立女學校○フエリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立學舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○金城女學校○高田女學校○海香崎女學校。

定價			
一冊。	前金	五錢五厘	郵税。五厘
六冊。	前金	三拾三錢	但郵税共
十二冊。	前金	六拾六錢	但郵税共

本誌は毎月一回廿一日に發兌す○代價は前金拂込を要す○爲替は麴町郵便局宛にて振込被下度○郵券代用は五厘切手にて一割增の事○見本郵券六錢にて送るべし

文部大臣子爵榎本武揚公題字
大學院奬學士三島通良先生著

增補訂正 第二版

はゝのつとめ

皇后宮御覽

親の巻 妊婦産婦の心得定價金三十錢（郵税二錢）子の巻 日本育兒法定價金四十五錢（郵税四錢）

右は我國無双との好評を博したる日本母子衞生書なり先般增補訂正の上再版したり醫科大學産科婦人科小兒科病室幷に群馬縣高等小學其他諸女學校に於て參考書又は用書として使用するところ少からず。

書肆 通三丁目 丸善。表神保町 中西屋。馬喰町島利。春木町 島利支店。通塩町 中央堂。

下六番町 女學雜誌社

女學雜誌大賣捌所

東京。東海堂○同武藏屋○同巖々堂○同重陽堂○同東京堂○同盛春堂○同解明堂○同團々社○同万字堂○横濱新聞共同發賣會社○大坂福音社○同岡島支店○京都東枝律書店○同大黑屋書店○神戸福音社○函館福音社○熊本草野書店○松江盛進堂

雜誌定價			
一冊	六錢	郵税。五厘	（但府内無郵税）
十一冊	五拾八錢	郵税。五錢	（同前）
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學生

二拾號去ル一月廿一日發兌セリ

額上の汗……星野愼

漫錄

病中雜感(苦腸百回、愛の攝理、主と我等、先づ己に反求す、愛と慾、至不至、神の前と人の前、小心と大膽、愛すべき愛よ、烈火と熱涙、最も寂しく最も賑やかなり、德)……山月子

百感雜筆(義は讓るとを爲す、感情は水蒸氣に似たり、浮世書上の雜字)……暗光子

雜錄

新年祝……(女子學院)小出千香子

細君(アーピング作下半譯)……(明治女學校)波多野祐子

故山の日……(女子學院)瀧口みか子

新年附錄小說

太刀創……暗光子

一冊六錢　女學雜誌社發兌

女學生全盟各女學校は左の如し

○明治女學校○女子學院○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立學舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○金城女學校○高山女學校○海香崎女學校。

定價			
一冊。	前金	五錢五厘	郵税。五厘
六冊。	前金	三拾三錢	但郵税共
十二冊。	前金	六拾六錢	但郵税共

本誌は每月一回廿一日に發兌す○代價は前金拂込を要す○爲替は麴町郵便局宛にて振込被下度○郵券代用は五厘切手にて一割增の事○見本郵券六錢にて送るべし

大學院撰學士三島通良先生著

皇后宮御覽

第二版 增補訂正

はゝのつとめ

親の卷 妊婦產婦の心得 定價金三十錢(郵税二錢)

子の卷 日本育兒法 定價金四十五錢(郵税四錢)

右は我國無双との好評を博したる日本母子衛生書なり先般增補訂正の上再版したり醫科大學產科婦人科小兒科病室幷に群馬縣高等小學其他諸女學校に於て參考書又は用書として使用するところ少からず。

書肆

通三丁目 丸善。表神保町 中西屋。馬喰町 島利。春木町 島利支店。通旅籠町 中央堂。

下六番町 女學雜誌社

女學雜誌大賣捌所

東京。東海堂○同武藏屋○同巖々堂○同重陽堂○同東京堂○同盛春堂○同解明堂○同團々社○同万字堂○橫濱新聞共同發賣會社○大坂福音社○同岡島支店○京都東枝律書店○同大黑屋書店○神戶福音社○函館福音社○熊本草野書店○松江盛進堂

雜誌定價			
一冊	六錢	郵税。五厘	(但府内無郵税)
十冊	五拾八錢	郵税。五錢	(同前)
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所

東京市麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三